

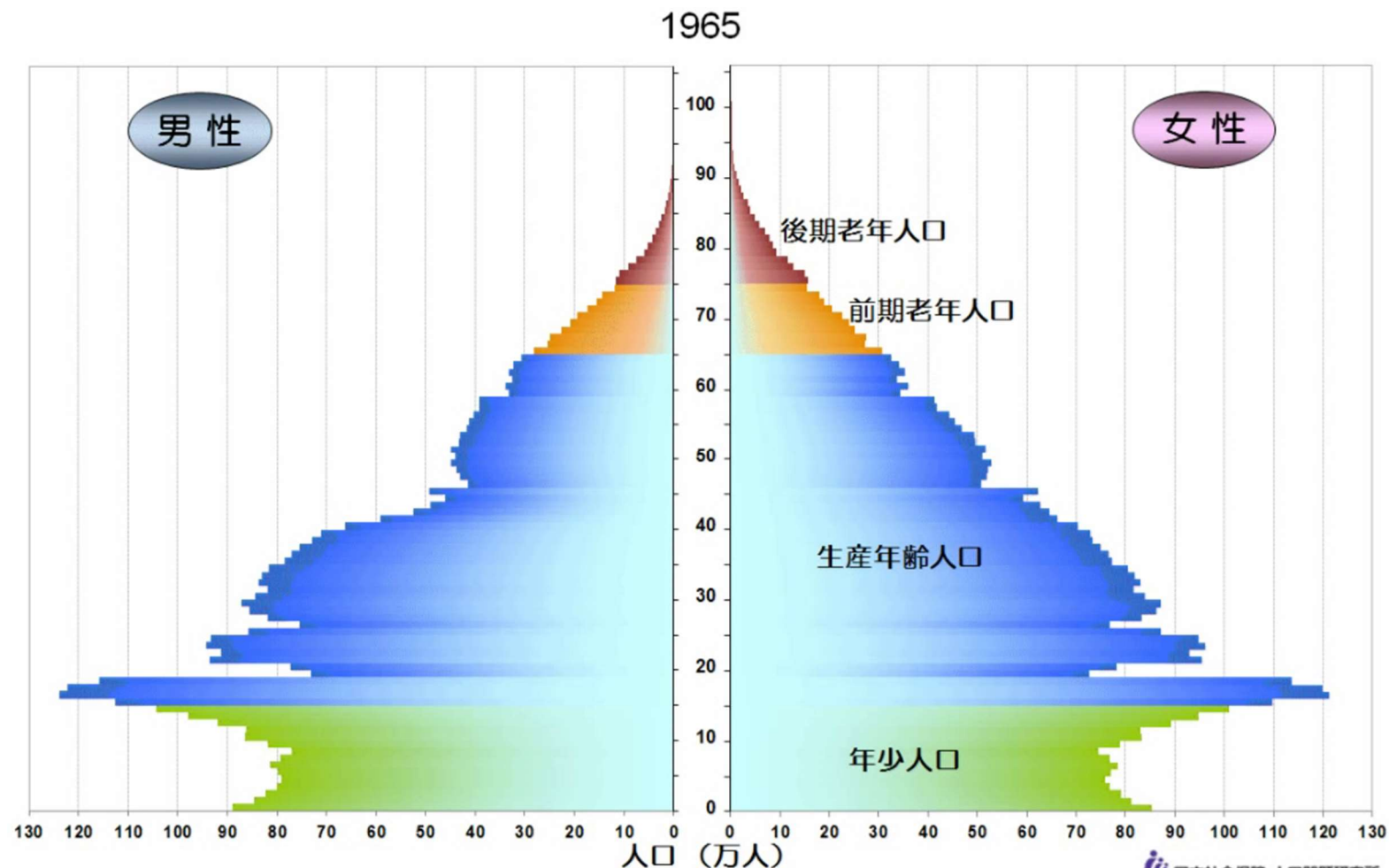
第88回まちべん

豊田市の目指す 将来都市構造について

2019.1.16(水)
発表者: 研究員 坪井志朗

人口減少・少子高齢化

- 人口の総数が減少し、2060年には1億人を下回る
- 少子高齢化が進行し、2060年には3人に1人が65歳以上になる



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」。

都市の広域化・スプロール化

○人口増加時代から市街地の広域化が進行し、田んぼ、畑の土地に虫食い状に宅地が広がる

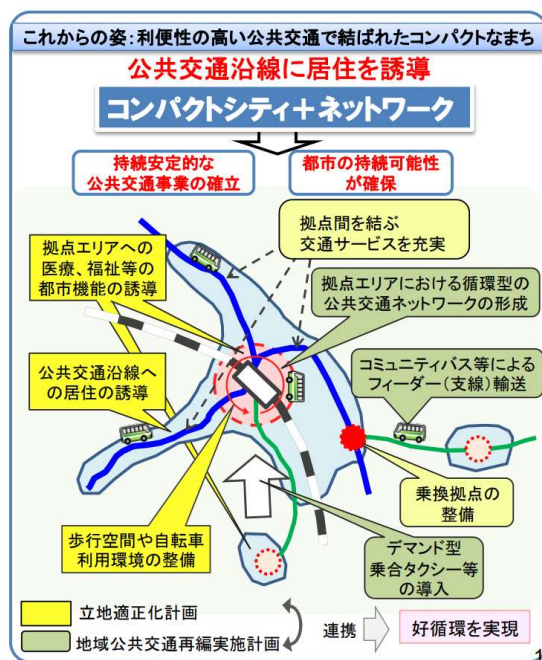


区域区分制度（通称：線引き制度）1968年～

- 都市のスプロールの抑制について大きな役割を担ってるのが区域区分制度（線引き制度）である。
- 市街化区域とは、市街地として積極的に開発・整備する区域、市街化調整区域とは、市街化を抑制すべき区域である。



- 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の都市構造が目標されており、同計画に基づいたコンパクトシティの構築手法が求められている。
- 本計画は、生活環境の向上のため、まとまった居住を図るエリアである居住誘導区域や、都市機能を優先的に誘導し、生活サービス機能の計画的配置を図るエリアである都市機能誘導区域を設定を推進しています



 国土交通省

※平成30年8月31日までに作成・公表の都市()
 都市機能誘導区域 緑化誘導区域ともに設置した市町村(●・1.42都市) 都市機能誘導区域のみ設置した市町村(○・2.5都市) (平成30年8月31日時点)

[illegible]

日本の市区町村(1724都市)の内、420都市が取り組みを行っており、177都市が既に作成・公表している

背景

- 将来都市構造を検討し、利便性の高い都市構造にするためには、集約すべき拠点や地域を限定する必要がある
- また、将来都市構造を行政のみでなく、市民一人一人が将来像を共有することは重要である

本日の話題提供

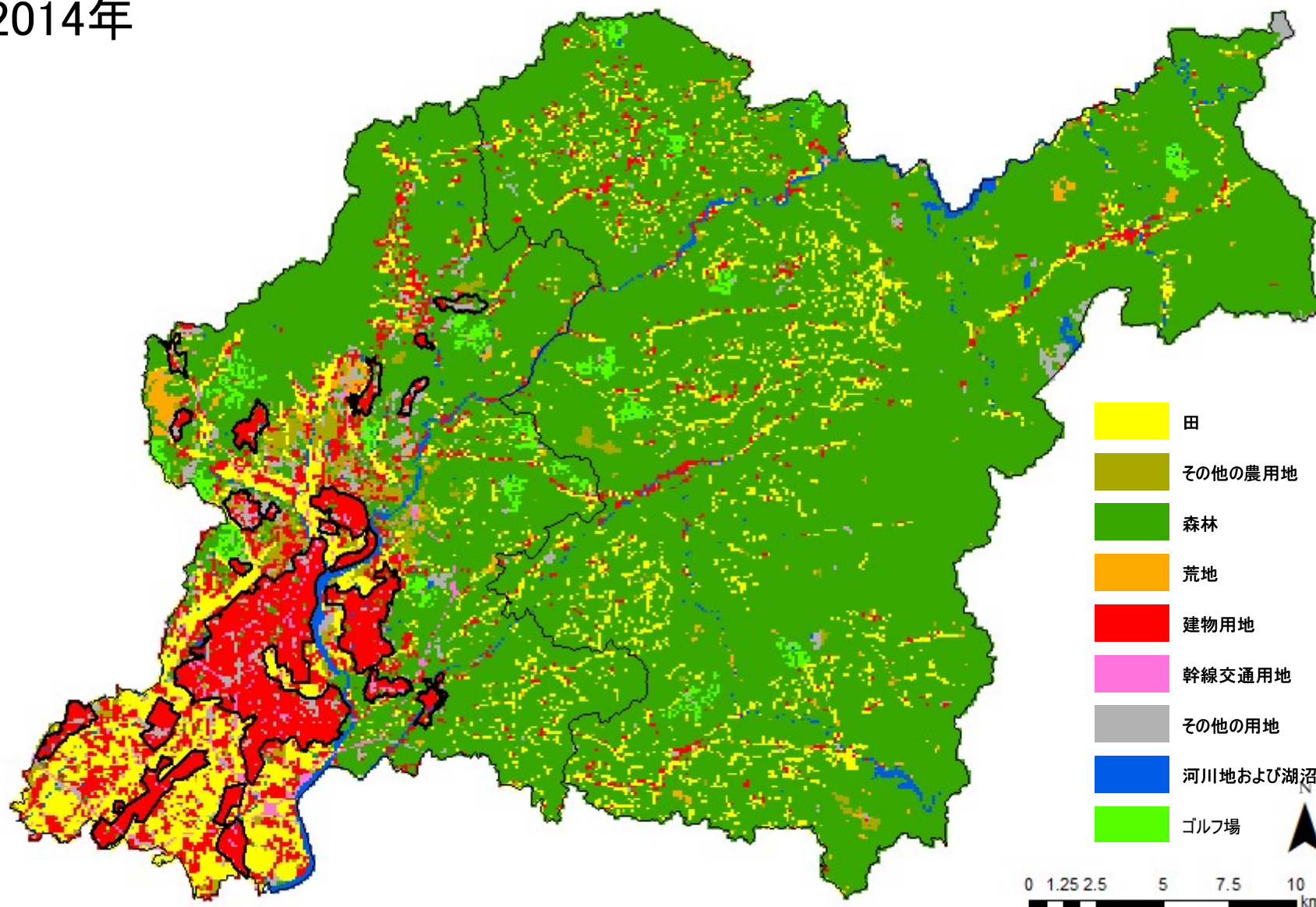
今回のまちべんでは、豊田市の目指している将来都市像を把握した上で、目標としている将来像を人口分布を用いて詳細に可視化し、どのようなまちになるのか（目指しているのか）、考察を踏まえて紹介いたします



豊田市の土地利用・人口

土地利用の推移 土地の状態や用途

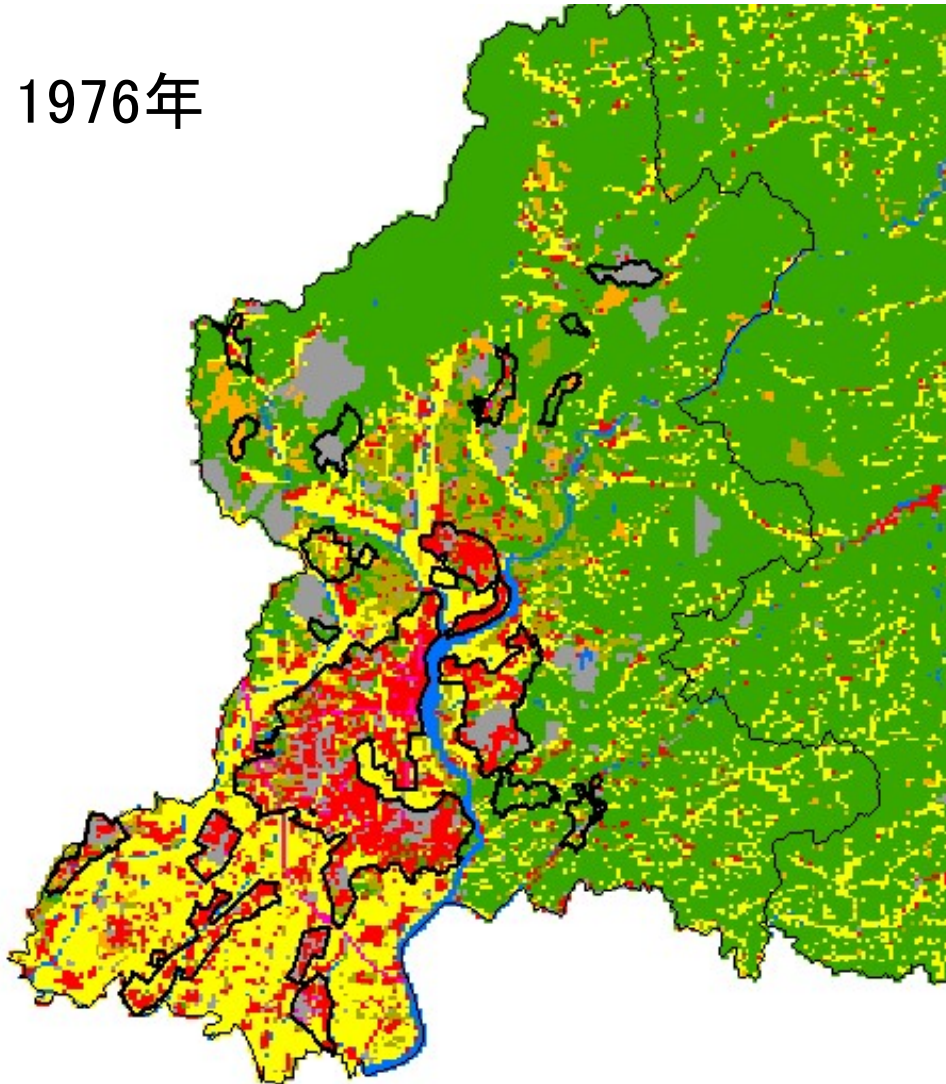
2014年



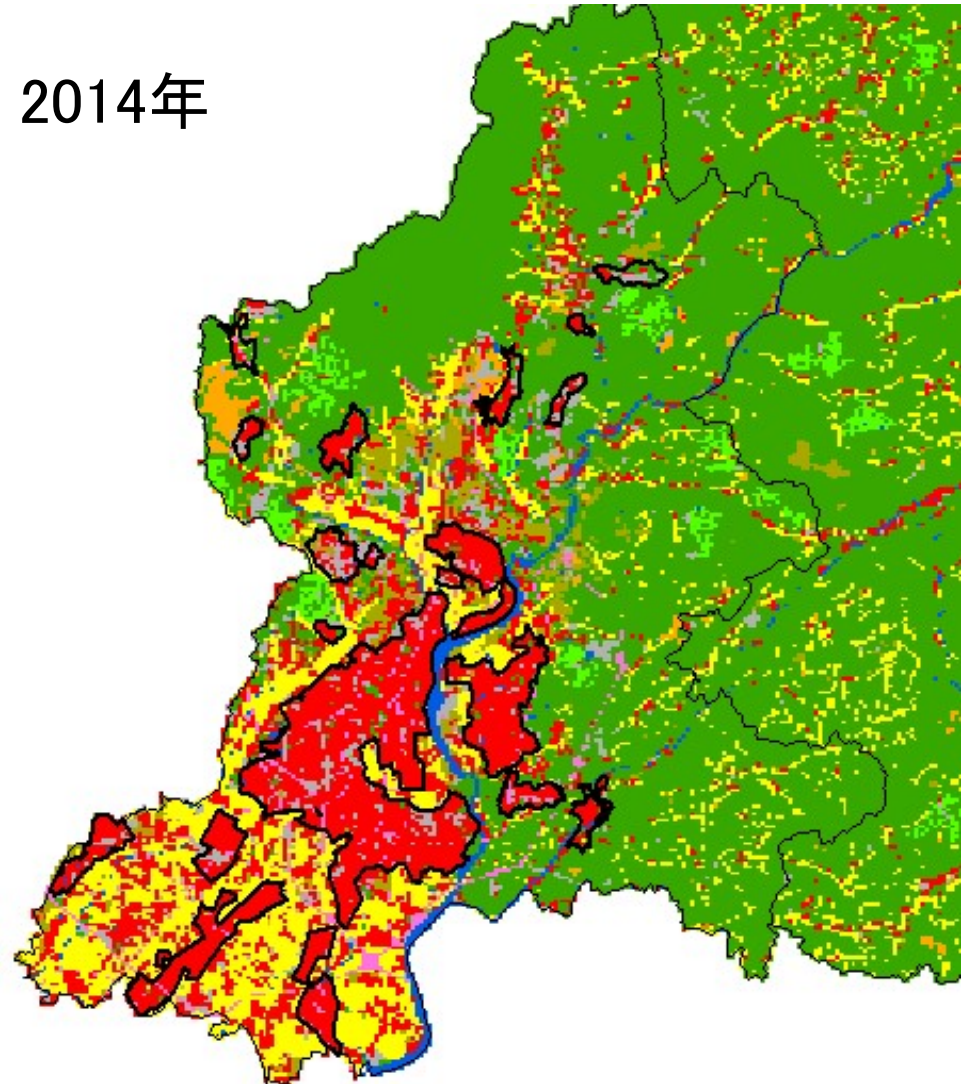
土地利用の推移

- 1976年から2014年まで、用途地域内での市街化が活性化している
- 郊外においては、用途地域縁辺部において、都市のスプロールが見られる地域がある

1976年

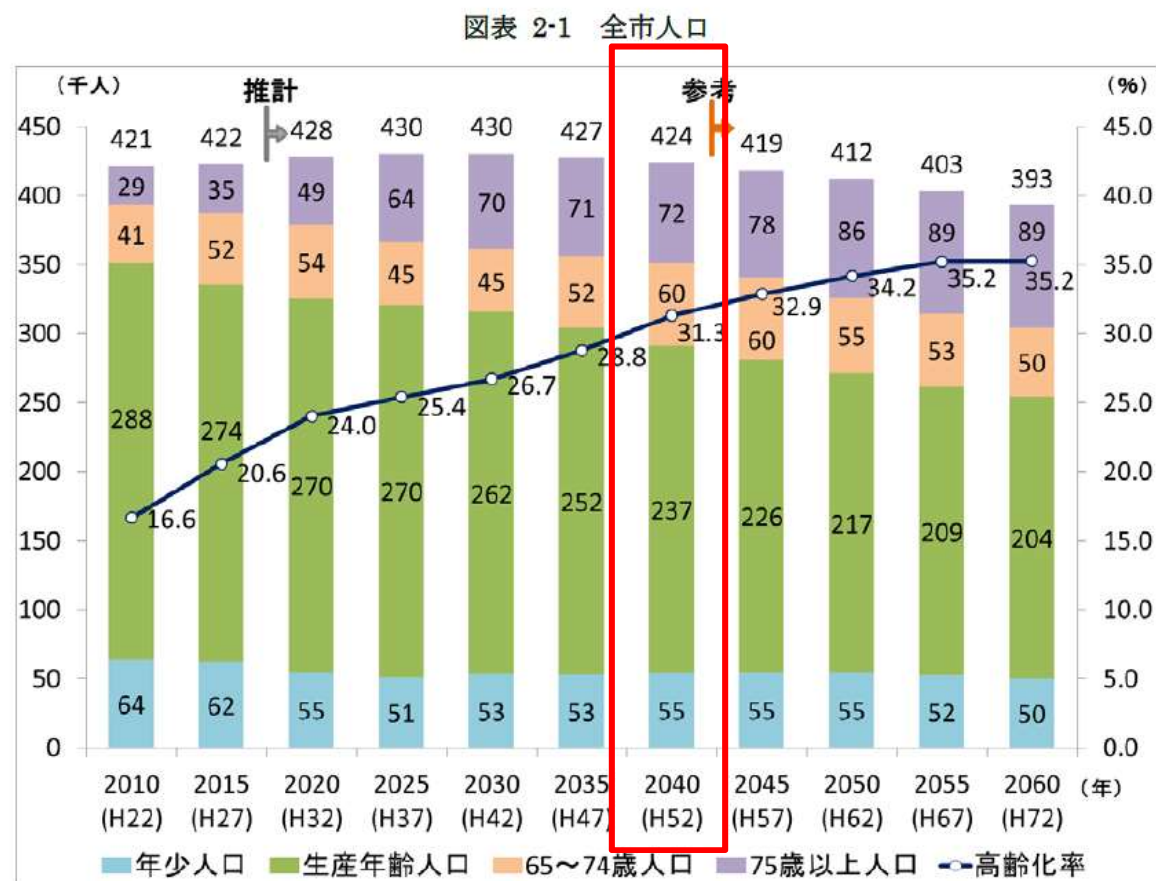


2014年



人口の将来展望

○将来展望として、2030年の430,000人をピークに、2040年では420,000人と、現在の人口を維持することを目標としている。

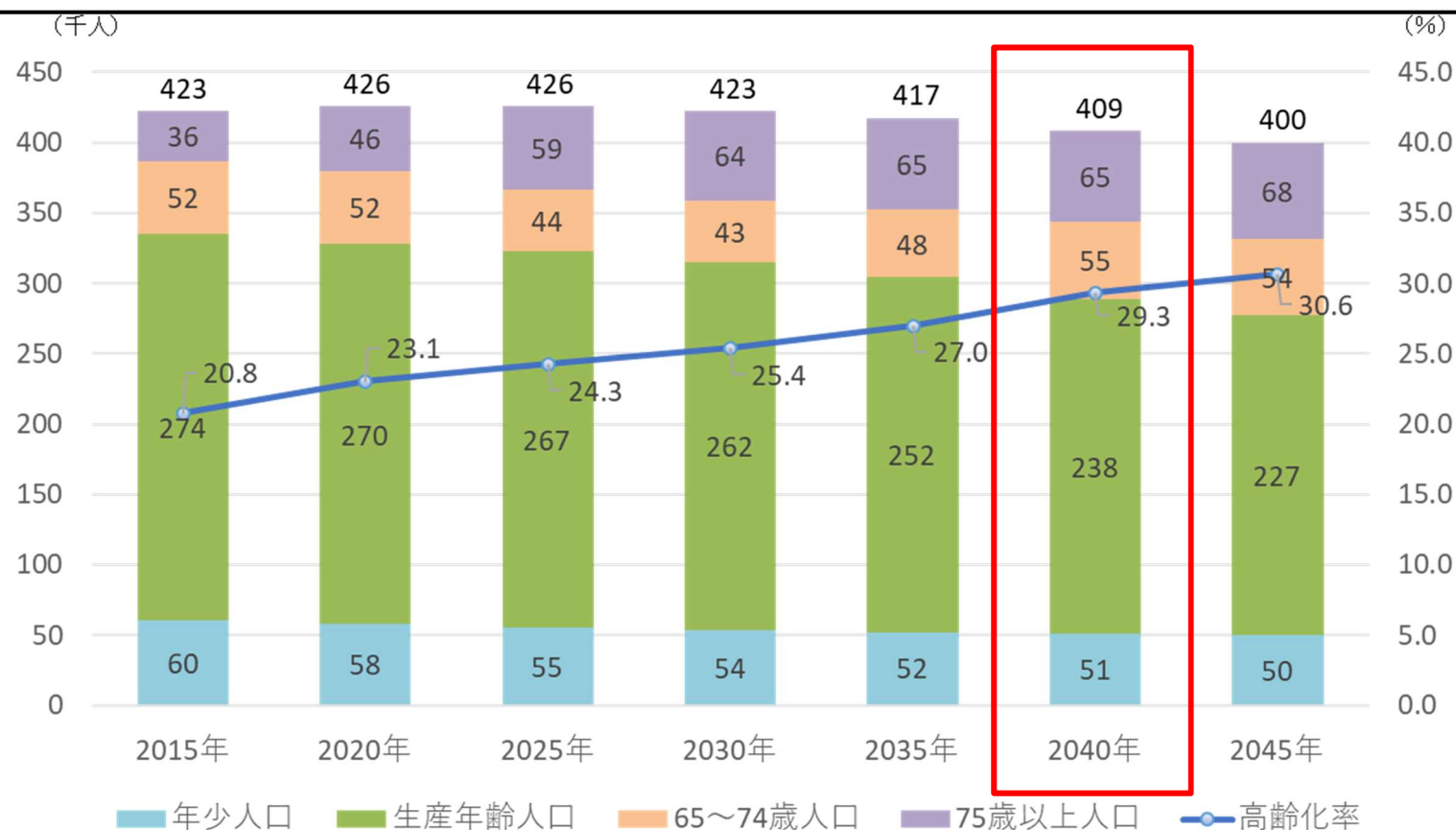


出典：豊田市 人口ビジョン まち・ひと・しごと創生総合戦略

現状の人口のまま推移した場合

○国立社会保障・人口問題研究所が算出している将来推計人口では、2040年の人口は408,866人と推計されている

⇒2040年には、豊田市全域で11,134人(420,000-408,866人)の人口を増加する必要がある



国立社会保障・人口問題研究所のデータを基に作成

豊田市の目標とする将来都市構造



豊田市行政計画の目標（抜粋）

○様々な行政計画において、豊田市の将来像が目標とされている

計画名	年月日	対象範囲	目標年次	目標値
第3次豊田市住宅マスタープラン	2018.3	豊田市	2025年度	宅地増加量：7,100ha 拠点地域核等における人口密度：104人/ha その他多数
「交通まちづくりビジョン2040」「交通まちづくり行動計画（2016-2020）」	2016.3	豊田市	2040年	公共交通利用者数 鉄道：75,000人/日 バス：17,000人/日 その他多数
第8次豊田市総合計画	2017.3	豊田市	2040年	将来人口：420,000人
豊田市都市計画マスタープラン	2018.3	都市計画区域 （豊田、藤岡）	2027年	将来人口 都市計画区域：413,500人 豊田市全域：430,000人
山村地域の振興及び都市との共生に関する基本方針	2016.3	山村地域 （旭、足助、稲武、小原、下山）	2040年	将来人口 2020年：21,000人 2040年：16,000人
豊田市幹線道路整備計画	2017.4	豊田市	2024年度	インターチェンジへ10分以内に到達が可能な市民の割合：54%→77%
とよた快適自転車プラン	2017.3	豊田市	2017年	自転車の交通事故死者数：H25（316人）から1割減 自転車の利用者割合（分担率）：H22年（8.9%）から向上
第2次豊田市環境モデル都市アクションプラン	2014.3	豊田市	2030・2050年	CO2削減（1990年比） 2030年：30削減（必達）、50%削減（チャレンジ） 2050年：50削減（必達）、70%削減（チャレンジ）
都心環境計画	2016.3	豊田市駅及び新豊田市駅を中心とした概ね1kmの区域（約196ha）	2027年度	歩行者数：100千人/日 鉄道・バス利用者数：62千人/日 その他多数
第3期 豊田市中心市街地活性化基本計画	2018.3	豊田市駅周辺地区	2023.3	歩行者通行量（昼間9-17時）：32,584人/日 フリーパーキング対象駐車場の総利用時間：700万台・時間 公共的空間の利用率：36.50%

地区別将来推計人口

○都市計画区域の人口は2040年には393,125人と推計され、行政計画と比較すると、10,876人の増加見積もり人口がある。また、山村地域は259人の増加見積もり人口となっている。

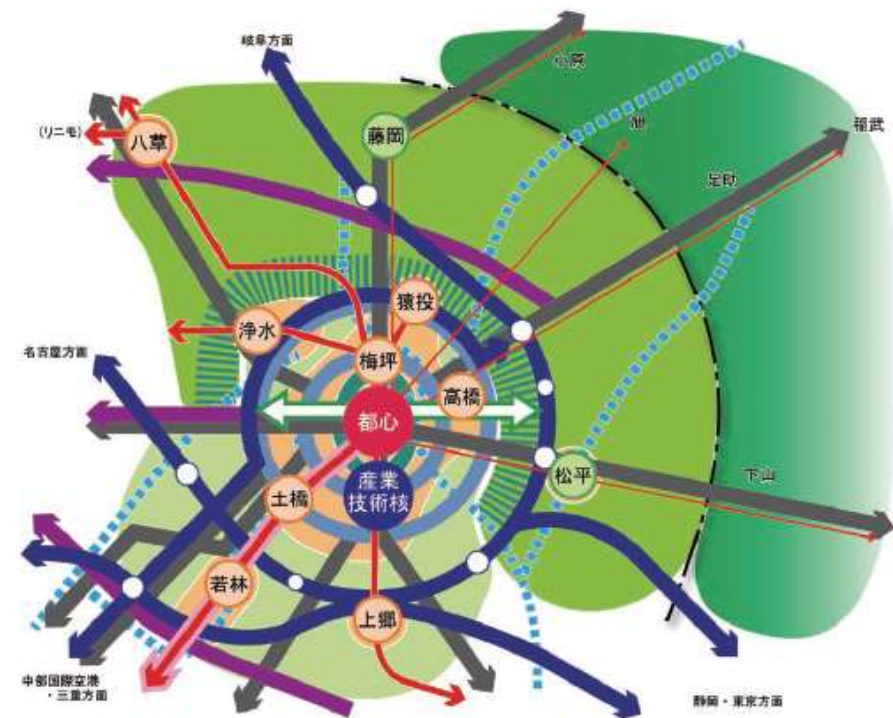
計画名	年月日	対象範囲	目標年次	目標値
第8次豊田市総合計画	2017. 3	豊田市	2040年	将来人口：420,000人
豊田市都市計画マスタープラン	2018. 3	都市計画区域 (豊田地区、藤岡地区)	2027年	将来人口 都市計画区域：413,500人 豊田市全域：430,000人
山村地域の振興及び都市との共生に関する基本方針	2016. 3	都市計画区域外 (旭地区、足助地区、稲武地区、小原地区、下山地区)	2040年	将来人口 2020年：21,000人 2040年：16,000人

地区		将来推計人口						地区別人口		行政計画目標値		増加見積もり人口	
		2015	2020	2025	2030	2035	2040	2030	2040	2027 (2030)	2040	2027 (2030)	2040
豊田地区	都市計画区域	382,293	386,359	387,146	385,039	380,518	373,785	404,901	393,125	413,500	404,000	8,599	10,876
藤岡地区		19,097	19,428	19,767	19,862	19,673	19,339						
小原地区	山村地域	3,716	3,529	3,345	3,162	2,995	2,824	17,726	15,741	16,500	16,000	-1,226	259
足助地区		7,892	7,473	7,072	6,682	6,316	6,045						
下山地区		4,484	4,340	4,183	3,980	3,772	3,563						
旭地区		2,692	2,474	2,276	2,104	1,960	1,819						
稲武地区		2,368	2,180	1,979	1,798	1,639	1,491						
合計		422,542	425,783	425,768	422,627	416,873	408,866	422,627	408,866	430,000	420,000	7,373	11,134

目指す将来像

○豊田市の目指す将来像として、都市機能や生活機能を集約すべき「核」を設定し、核と核を公共交通や道路でつないだ「ネットワーク」を設定し、「多核ネットワーク型都市構造を目標としている

図-3 将来都市構造及び土地利用のイメージ



広大な市域と点在する市街地や集落を抱える本市の特性を踏まえ、効率的な都市経営に向け、地域ごとの特性に応じて都市機能や生活機能を集約すべき場所を「核」（都心、産業技術核、拠点地域核及び地域核）とし、それらの核と核の相互連携を強めるための公共交通（鉄道及び基幹バス）や道路を「ネットワーク」として位置付け、来るべき人口減少や到来した超高齢社会においても、多様なライフスタイルに合わせた安全・安心な生活を送ることができる多核ネットワーク型都市構造への誘導を図ります。

出典：豊田市都市計画マスタープラン

豊田市の将来都市構造のシナリオ 分析

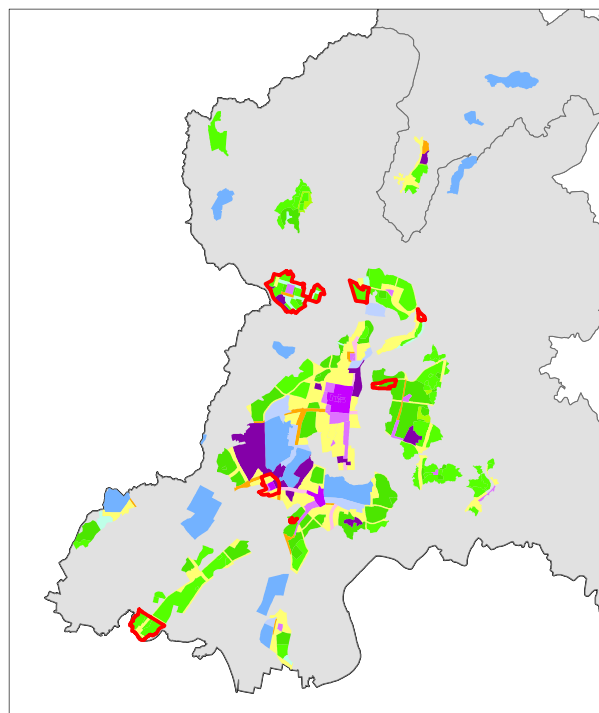
目指す将来像（シナリオ分析）

○豊田市の将来都市構造を、人口分布の観点から可視化し、どのような都市構造になるかを把握する

将来像可視化シナリオ（2040年を目標年度に設定）

1. 土地区画整理事業を施行している地域の人口増加を考慮する※
2. 鉄道駅周辺（800m圏域）の人口を2015年人口で維持する

※ 土地区画整理事業内の人口が各用途地域の人口密度にまで増加

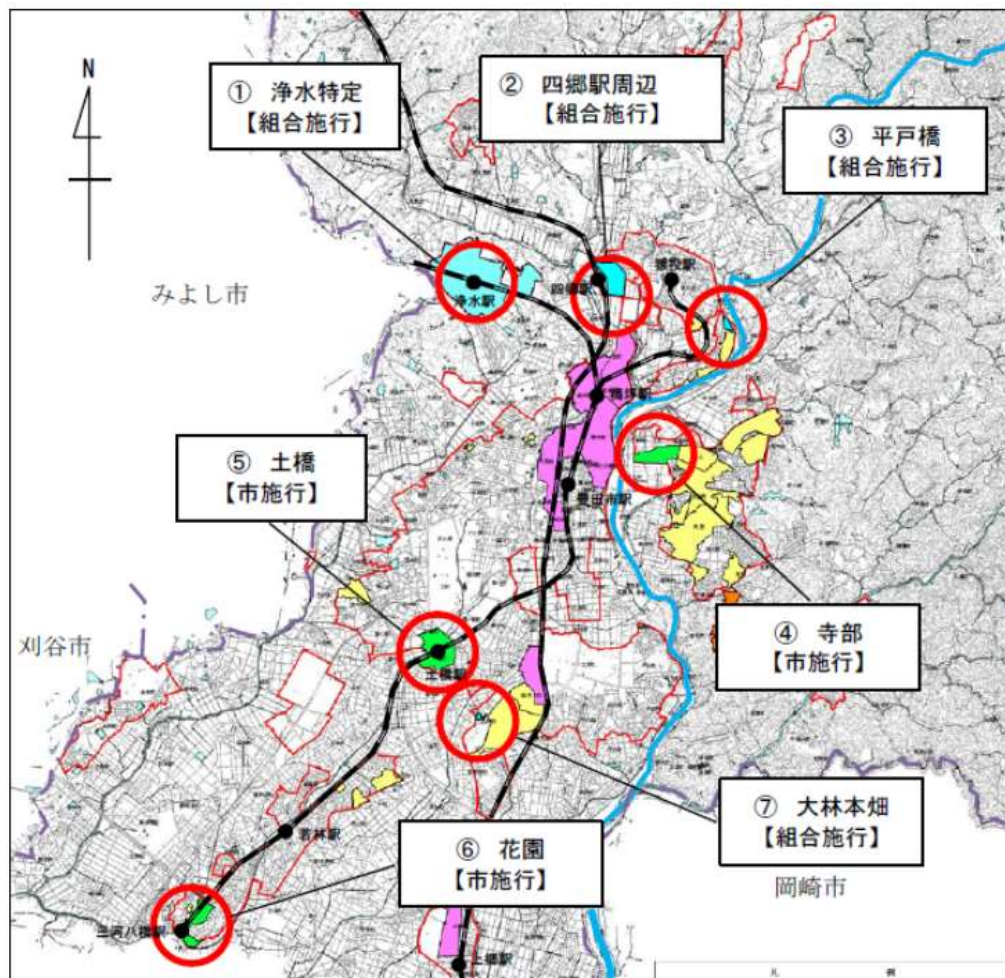


- 土地区画整理事業
- 第一種低層住居専用地域
- 第二種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第二種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域
- 工業専用地域

用途地域	人口密度 (人/ha)
第一種低層住居専用地域	72.3
第二種低層住居専用地域	63.6
第一種中高層住居専用地域	78.9
第二種中高層住居専用地域	81.0
第一種住居地域	60.5
第二種住居地域	47.1
準住居地域	34.2
近隣商業地域	61.5
商業地域	78.2
準工業地域	46.1
工業地域	36.4
工業専用地域	0.6

土地区画整理事業

○道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業



○現在、豊田市内で施行中の土地区画整理事業は7地域あり、今後、快適で良好な居住環境が整備される

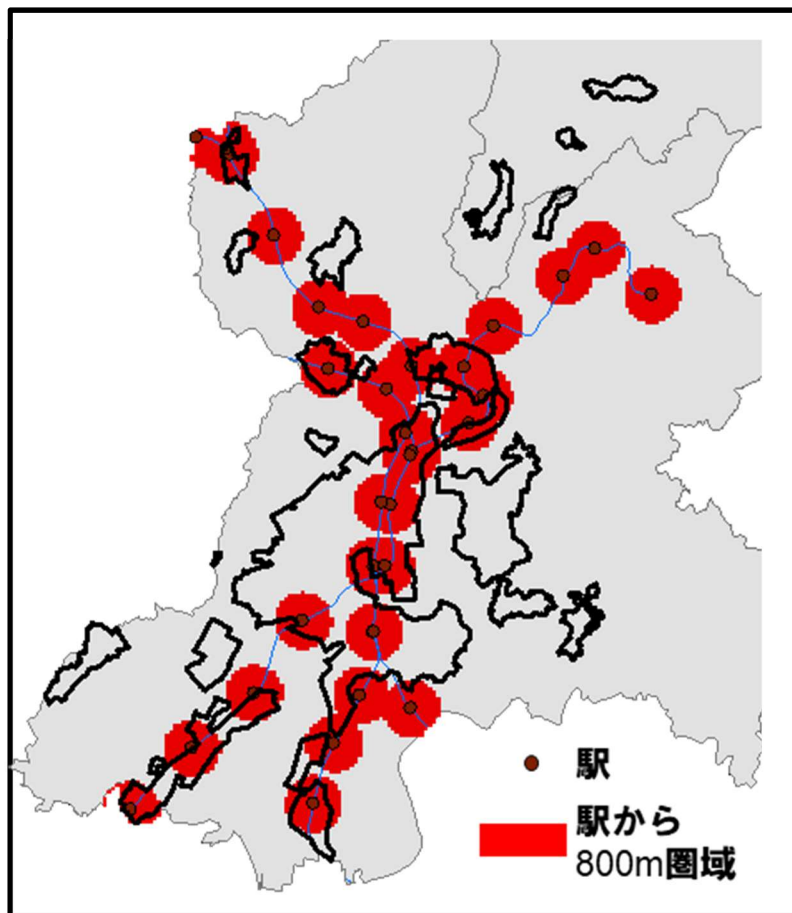
○一番大きい地区で155ha(浄水特定)、一番小さい地区で1.8ha(大林本畑)



浄水特定土地区画整理事業

鉄道駅周辺（800m圏域）

- 鉄道を利用する人の増加のため、鉄道駅周辺（800m圏域）の人口を維持する
- 800m圏域は一般女性が徒歩10分で歩ける距離



- 豊田市には約30の鉄道駅が有り、駅から800m圏域を考えると、約4,800ha（豊田市の約5%、都市計画区域の約14%、用途地域面積とほぼ同じ）となる
- 行政計画において、駅周辺は都市機能連携拠点、もしくは居住誘導拠点に位置付けられており、計画的な居住誘導を推進している

2 拠点の方針

● 都市機能連携拠点

都心と産業技術核の中間に位置する鉄道駅や大規模工場の周辺を「都市機能連携拠点」として位置付け、都心の商業・業務機能や居住機能の補完及び産業技術核の研究・開発機能や次世代産業機能の補完に向けて、都心及び産業技術核と一体となる都市機能の誘導を図ります。

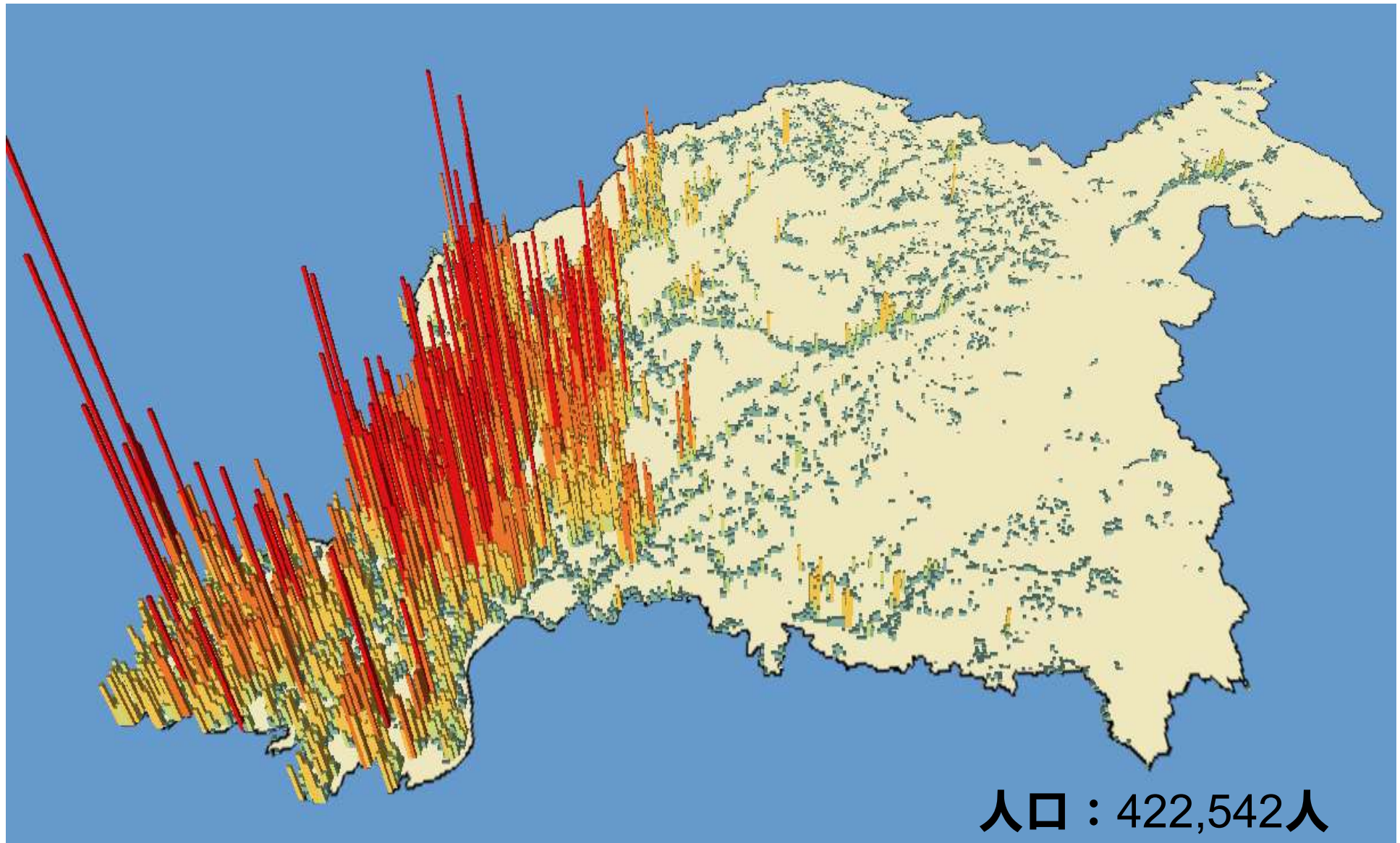
● 産業誘導拠点

産業用地の需要が高い主要なインターチェンジや大規模工場の周辺等を「産業誘導拠点」として位置付け、周辺の土地利用との調和を図りながら、新産業の創出に向けて、生産機能に加え、研究・開発機能の誘導や新たな産業の立地を図ります。

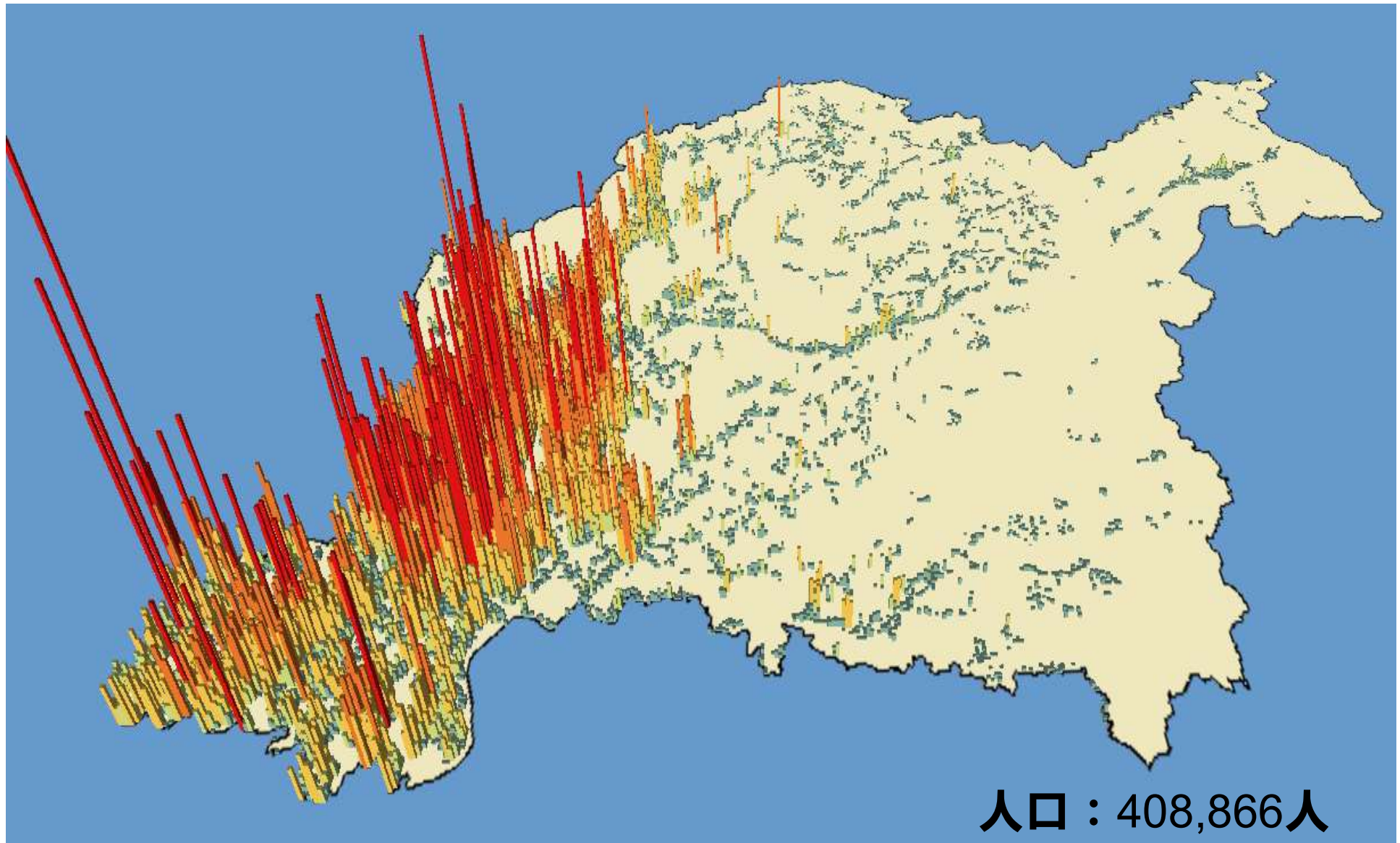
● 居住誘導拠点

市街地ゾーン及び都市・田園共生ゾーンにおける主要な鉄道駅の周辺等を「居住誘導拠点」として位置付け、土地区画整理事業等により住宅需要に応える宅地を供給します。あわせて、来るべき人口減少や到来した超高齢社会への適応に向け、都市機能や生活機能を確保し、居住誘導を推進します。

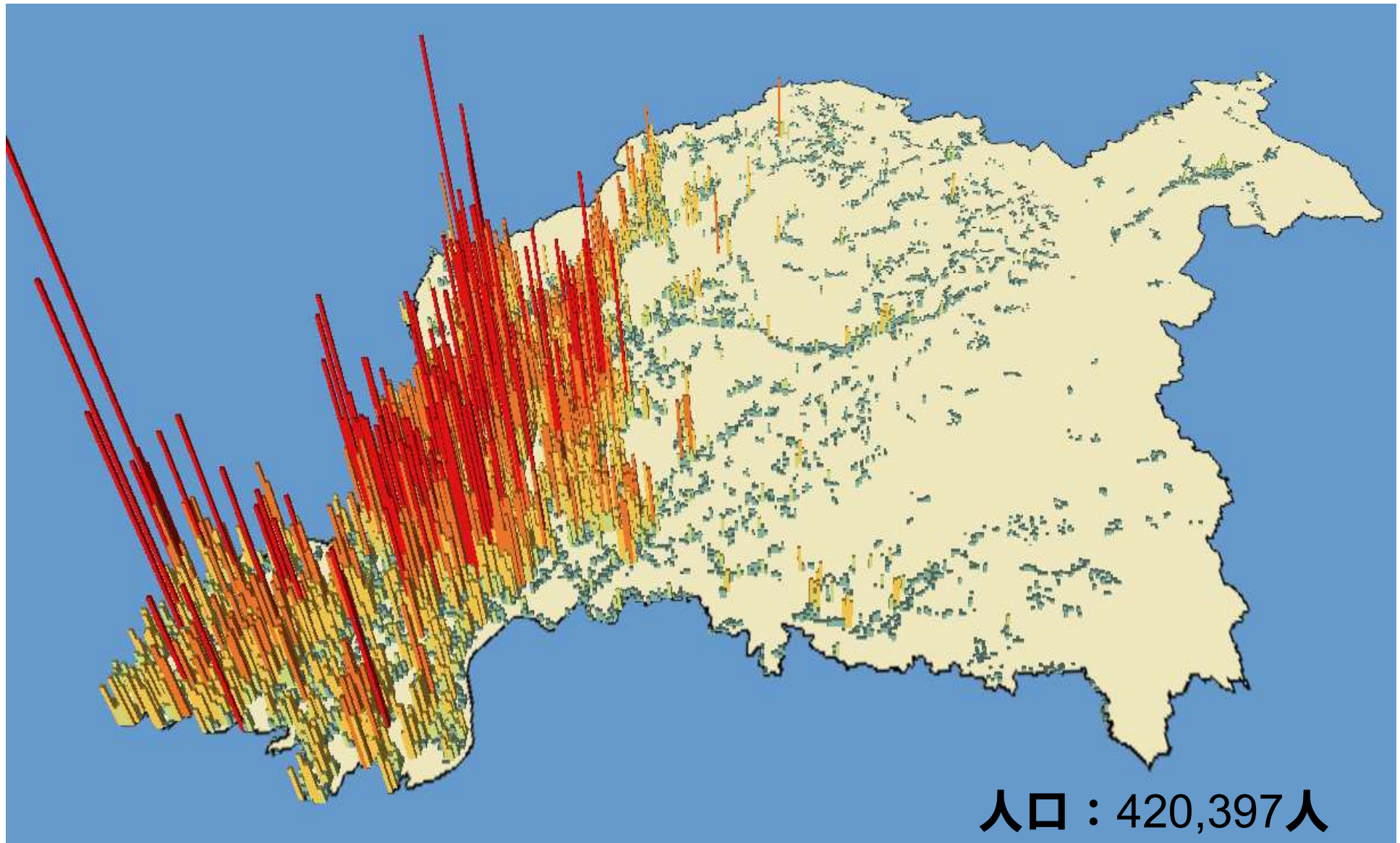
2015年人口分布



2040年人口分布



2040年人口分布を集約化



人口：420,397人

備考：目標人口420,000人を達成

シナリオ評価

- 土地区画整理事業の人口増加と駅周辺の人口維持をシミュレーションすると、2040年の行政目標人口を達成することができる
- 都市計画区域の可住地内人口密度は人口集約することで維持することができる。

人口の推移

地区		将来推計人口						地区別人口		行政計画目標値		集約シナリオ適応	
		2015	2020	2025	2030	2035	2040	2030	2040	2027 (2030)	2040	2040集約	
豊田地区	都市計画 区域	382,293	386,359	387,146	385,039	380,518	373,785	404,901	393,125	413,500	404,000	385,316	404,656
藤岡地区		19,097	19,428	19,767	19,862	19,673	19,339					19,339	
小原地区	山村地域	3,716	3,529	3,345	3,162	2,995	2,824	17,726	15,741	16,500	16,000	2,824	15,741
足助地区		7,892	7,473	7,072	6,682	6,316	6,045					6,045	
下山地区		4,484	4,340	4,183	3,980	3,772	3,563					3,563	
旭地区		2,692	2,474	2,276	2,104	1,960	1,819					1,819	
稲武地区		2,368	2,180	1,979	1,798	1,639	1,491					1,491	
合計		422,542	425,783	425,768	422,627	416,873	408,866	422,627	408,866	430,000	420,000	420,397	

可住地内人口密度

	2015	2040	2040集約
豊田	40.3	39.5	40.5
藤岡	20.9	21.2	21.2
小原	5.7	4.5	4.5
足助	7.7	6.0	6.0
下山	8.6	6.9	6.9
旭	5.4	3.9	3.9
稲武	6.4	4.4	4.4

人口密度別メッシュ数

都市計画区域				山村地域		
	2015	2040	2040集約	2015	2040	2040集約
0	23,958	23,964	23,924	51,223	51,217	51,217
1-20	5,240	5,292	5,214	2,921	2,983	2,983
20-40	1,712	1,717	1,684	107	64	64
40-100	2,493	2,476	2,606	32	19	19
100-	952	906	927	1	1	1
合計	34,355	34,355	34,355	54,284	54,284	54,284

さいごに

まとめ

将来の目標人口を達成するには以下の2点が必要

- ① 現在の土地区画整理事業に居住する人口増加
- ② 駅周辺の人口を維持

※ 土地区画整理事業内の人口が
各用途地域の人口密度にまで増加

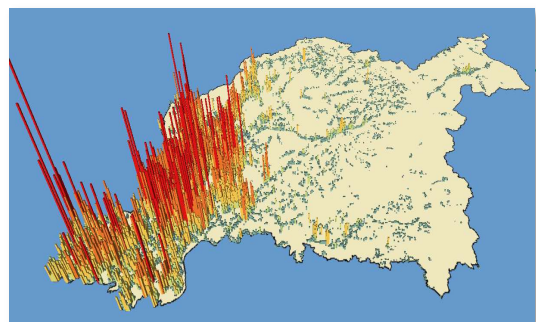
行政が目標とする計画人口を達成する

その他のシナリオを考える場合

- ⇒人口を増加すべき地域とはどこか（例：土地区画整理事業）
- ⇒人口を維持すべき地域とはどこか（例：駅周辺）
- ⇒人口の減少を考えなければいけない地域とはどこか
（例：優良農地、工場周辺）

将来都市構造を考える

- 将来都市構造可視化シミュレーションツールを開発
- 行政が目指す将来像と市民が思い描く将来像を細かく共有できる



2015年人口分布

行政計画に基づいた
シナリオ設定

インプットデータ

操作データ

人口(将来推計人口含む)

ルール設定データ

土地利用

自然災害地域

用途地域

集約拠点位置

目標人口密度 等

現状のまま推移

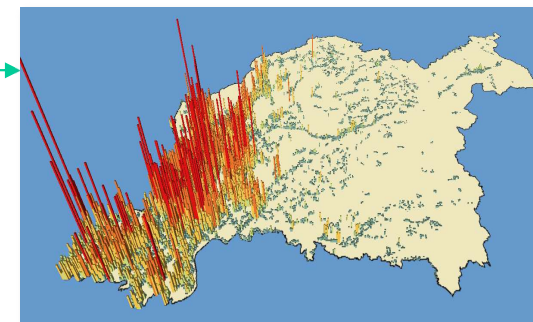
将来都市構造を検討

① 目標年と非可住地の設定

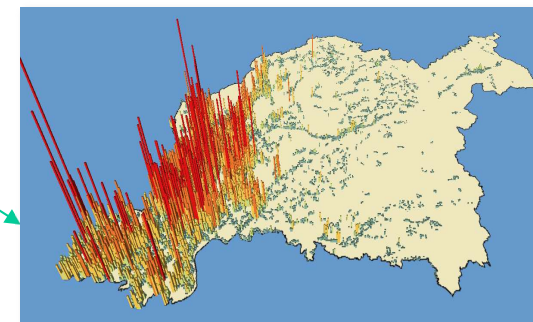
② 拠点範囲の設定

③ 集約人口の設定

④ 集約前後の比較



2060年人口分布



将来都市像①

様々なコンパクトシティモデル

拠点集中型

地方発展型

人口激減・激増型 ...etc

将来都市構造可視化
シミュレーションツール

ご清聴ありがとうございました